

# 梅花講発展によせて

## 秋田県宗務所梅花講長



平成10年 3月13日  
第 13 号

題字 大館市宗福寺先住  
故加藤信三老師御染筆  
発行所 北秋田郡鷹巣町七日市  
龍泉寺内  
秋田県梅花流師範会事務局  
発行者 丹生純雄  
編集者 (広報部) 保坂春聡  
印刷所 北秋田郡森吉町米内沢  
(南) 武石印刷  
☎ 0186-72-3319

あと二年、西暦二〇〇〇年は、大本山永平寺ご開山道元禪師生誕八〇〇年です。更に二年で、七百五十回大遠忌を迎えます。ご存じの通り梅花流詠讃歌は、昭和二十七年前回の大遠忌を契機として誕生したものです。現永平寺の宮崎禪師さまは、生誕八〇〇年と大遠忌を迎え、宗門の布教化の一大発展の機会にすることができらるだろうと仰せになっておられます。わが秋田県においても、宗門の布教化と梅花流詠讃歌が一大飛躍を遂げることが期待されます。



秋田県の梅花講も発足以来三十数年、発展の一途をたどってきました。最近では、県内各地寺院の大法要での梅花講員の参加や随喜の師範さんの独詠など、文字どおりの同修同行の様子は錦上添花を添え、法要に欠くべからざる存在になって来ています。ひとえに梅花講に関わる師範詠範ほか講員のみなさまのご努力の賜と深く感じ入

っています。

秋田県宗務所梅花講として、これからの発展上敢て問題点をとりあげますと、所謂北高南低、県北に比して県南雄平仙では、全体的に講設置をはじめ、未だしの感があります。県南では、梅花講の力を借りなくとも、ご寺院はしっかりと檀信徒のこころを把えているといえるでしょうが、この上更に梅花講があれば：：と思えます。昨年は、初めて県南から県奉詠大会に参加した講がありました。発展の芽生えができつつあると思えます。

秋田市

嶺梅院住職

三 浦 昭 一

今一つは、先般のアンケートの結果にもあり、梅花講のめざすところ、その歌詞などにも実に尊い宗旨がうたわれています。残念ながら

講員の多くは梅花流詠讃歌にもとめるところは、先祖供養の域にとどまっているようです。ご寺院さま、師範の方々のもう一步の踏み込みが足りないではないか：：と、おこがましい要望を申し上げる次第です。

梅花流の教典の最初には「お誓い」があります。この心を忘れずに、いつの日か県内全域に梅花の花を咲かせたいものです。



シリーズ

おらほの梅花講

さん山じ寺  
たけ嶽の應  
み三ぜん全

住所 北秋田郡 比内町中野七二一  
設立 昭和五十三年三月十日  
講長 佐藤 仁鳳  
講員 約二十名程

私共のお寺の梅花講は、今の方丈様が新しくお出でになられて、本堂改修工事と併行して落慶式には、皆で御詠歌をお唱えして祝いましょうと始まりました。

私達が小学校の頃「読み方」の本に出てきた一節「色は匂えど散りぬるを、我世たれぞ常ならむ」どこからか聞えてくる尊い言葉、美しい声。打ち続く難行苦行に身も心も疲れ切った一人の修行者が、ふとこの言葉に耳を傾けた、所は雪山、山の中のことである。お釈迦様が身を投じて仏の教えを求めた文の書き出しです。私達全應寺梅花講の人達も、方丈様の美声にひきつけられるように改修工事の槌音を聞き乍ら御詠歌の練習に励むようになりました。覚え始めの頃は楽しくて、田の草取りをしながら口ずさんだり、二人三人集まっては稲刈りをしながら唱和したものでした。

本堂の落慶式と新方丈様の晋山式の時にはまだ鈴鉦も無く、本当に腹の底から声を出して、三宝ご和讃をお唱えしたのが昨日のように思い出されます。そして御詠歌の中の仏の教えの有難さに打たれるようになりました。「我は佛にならずとも、生きとし生けるものみなを、もらさず救いたすけんと、誓うこころぞ佛なる」(修証義御和讃)



でもだんだん難しくなり、本宮寺の今は亡き廣俊方丈様からも指導を受けるようになりました。その教え方の厳しさ、お陰様で、県の奉詠大会、岩手、青森にての全国奉詠大会等にも参加してその法悦に浸り、又春秋の彼岸中日には「心の闇を照らします」と本堂から私達の御詠歌が境内に拡がります。「有難いことく」とおばあさん達が感激しながら

お墓参りをして行きます。今では御法事でもお葬式でも御詠歌が唱和されるようになりました。

年の暮れには講員のまとめでもある奥さんのお世話で「タンボ会」が開かれ講員手作りの料理を持ち寄って楽しく語り合います。

当初からの講員も亡くなったりして、これからは、若い人達にも講員を拡げて行かなければと話合っています。

全應寺は山の麓にあり方丈様がお出でになられてから再度にわたる本堂改築と境内の庭園も整備され、池が大小三つも有り自然水の噴水そして有名な水琴窟も有り。一度御参詣にお出で下さい。水琴窟の澄んだ音を聞きながら御一緒に詠讃歌の練習を致しましょう。

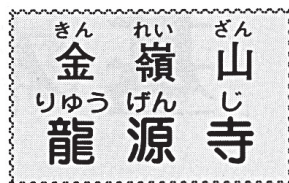
紹介者 講員 本間一喜子

0186(73)7676

梅花 予定表

三月	七日	正行御詠歌
	十四日	彼岸御和讃
	二十日	彼岸御詠歌
	二十八日	釈尊花祭御和讃
四月	四日	釈尊花祭第一番御詠歌
	十一日	観世音菩薩御和





住所	由利郡矢島町 城内字田屋の下二六
設立	平成四年四月
講長	土屋 眞雄
講師	近藤 俊貞
講員	二十名

龍源寺には、代々金嶺講中との名稱にて、道元講がございました。毎月二十八日の御講、各種法要の御手伝い、又講員による春秋彼岸会等々の活動を致しております。

その講員も高齢となりまして、世代交代の時期を迎え、新しい講員にて、以前にも増して親睦を深め、和を以つてお寺に帰依致したいものと思っております。梅花に出会いました。早速龍源寺梅花講を結成して頂き、それが平成四年四月のことでした。

現在二十名の講員にて毎月二回夜二時間、円通寺御方丈様を講師にお迎え致し、時には厳しく又やさしく御指導を頂いております。開講当時には初めて触れる法具、御教導下さる曲想に感激致しつつも、所作発声がむずかしく苦勞もありました。

その年の宗祖忌に、初めて三宝御和讃をお唱え出来ました時の私共一同の喜びは、表現出来ない程大きなものであった事が思い出されます。

又平成六年七月、梅花流県南奉詠大会に初めて参加させていただきました。広い会場が講員により埋めつくされ、厳肅な儀式に続き登壇奉詠となり、初登壇の私共は、緊張の連続で、無事に終えた時のよろこびと感動は言葉では言い尽せないものがありました。

以来梅花に取り組む熱意も一段と高まり、毎月の勉強会を楽しみに、和気あいあいの

中で行っております。

平成9年6月14日  
山門落慶法要 板橋禪師様と共に



当梅花講も開講七年となり、三月の涅槃会に始まり、春秋彼岸会、五月の境内地藏祭り九月宗祖忌等では必ずお唱えをしております。

又昨年六月の山門落慶法要に於きましては、法要大導師大本山総持寺副貫首御老師様(当時)の御先導に、稚児行列と私共梅花講にて務めさせて頂き、感激の中での奉詠をさせて頂きました。

又三年前よりは、大晦日の越年法要にて、御方丈様の読経と共に除夜の鐘を聴きなが



〒010-0111

東 泉 寺 あて

秋田市金足岩瀬字前山三

※「テレホン梅花」についての  
ご希望やご意見リクエスト等、  
お待ちしております。

十八日 観世音菩薩御詠  
讃

二五日 観世音菩薩第二  
番御詠歌

五月 二日 無常御和讃

九日 無常御詠歌

十六日 御授戒御和讃

二十三日 報謝御和讃

三十日 追善供養御和讃

六月 六日 追善供養御詠歌

十三日 良寛さま

二十日 地藏菩薩御和讃

二十七日 地藏菩薩御詠歌

ら、ゆく年に感謝し、くる年の万福御多幸を願い、お唱えを致し、すがすがしい新年を迎えております。

梅花流の長い歴史の中、私共はやっと第一歩を踏み出したばかりで御座いますが、この後も初心を忘れずに、ひたすら精進致して参りたいものと念じております。

紹介者 講員 小野 久



# 基本作法 (Ⅲ)

## 立行の撞木 横一文字のかまえ方



撞木は鈴の下端と  
同じ高さに水平に  
かまえる

釈迦紋が目の高さ

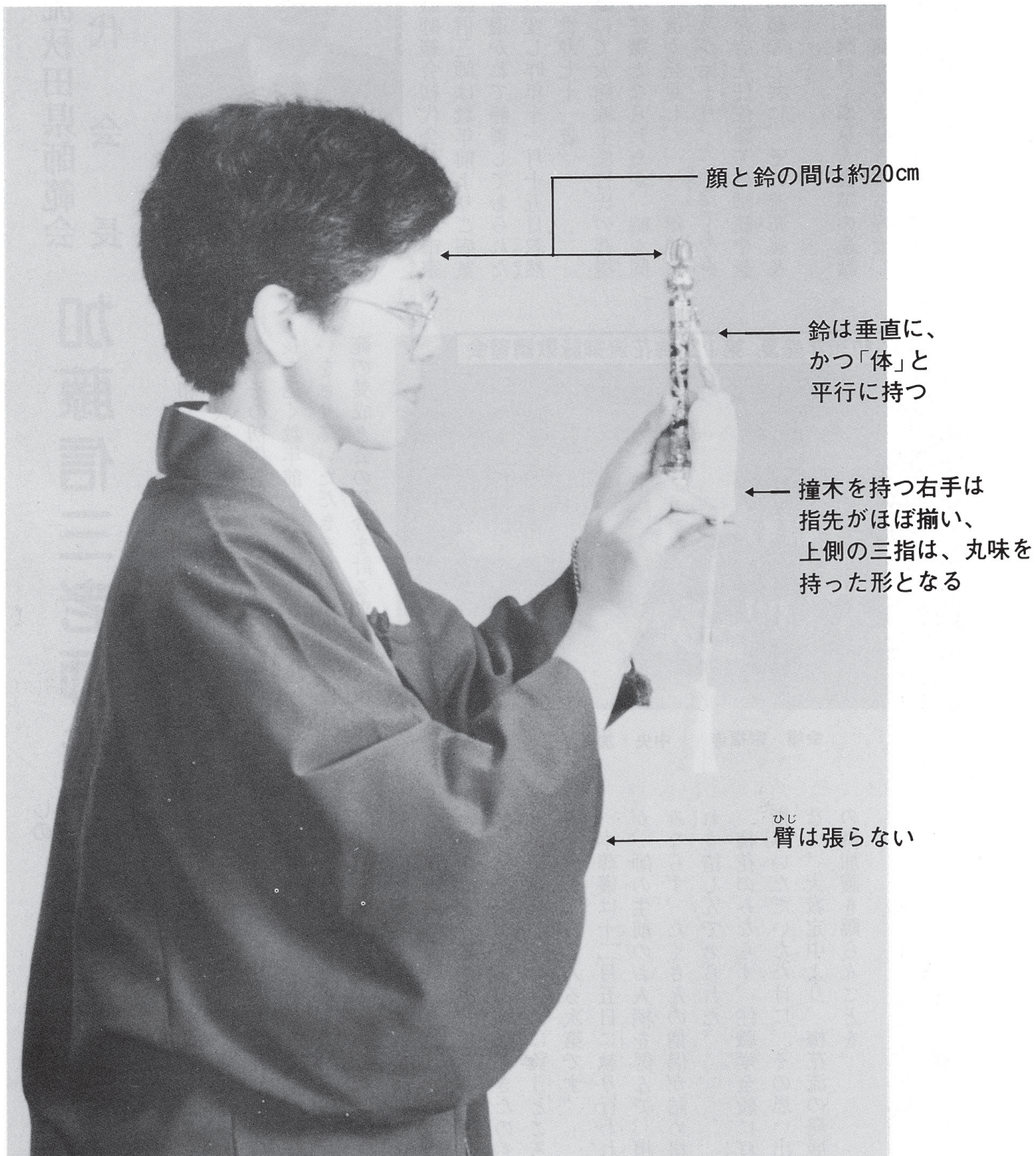
顔の中心線から  
10cm程左

鈴胴と撞木頭  
の間は約4cm

※ 拇指と小指が下側に、他の三指は上側に持つ  
※ 拇指が柄のほぼ中央に位置するように持つ



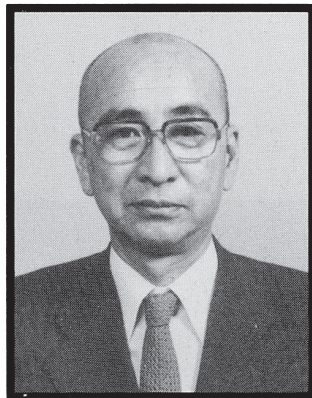
# 写真で見る



〔撮影協力〕 森吉町・奥山 京子様  
合川町・北林写真館様



梅花流秋田県師範会  
初代 会長



ありし日の  
加藤信三 老師

加藤信三老師を偲んで

昭和三十年代半ばになってようやく県の組織が次第に整い、師範会ができる若くしてその初代会長に推された。私は師が會長を退く数年前から事務局として些かお伝いをさせていただきましたが、師は専ら師範の養成と会の和合を計る事を強調され、

又、梅花は詠唱の上達だけを重視することなく、その「こころ」を理解させ、日常生活に活かすことを力説されておられた。師範詠範の講習会や講員一泊講習会等はこうした師の意を体して開催された。師範会の会合等に於いても、師は常に柔和な態度で接し、私共後輩や初心者の意見も聞き入れてくれた。

現在特派師範を初め、多くの師範詠範が生れ、県内梅花講が発展できたのも、草分け当初からの師の尽力に負うところ大なる事を改めて感じ入る次第です。

本葬儀は十二月五日に執り行われましたが、師の生前のお人柄を偲んで、檀信徒のみならず、たくさんのお僧侶が詰め掛けて別れを惜しんでおられた。

梅花のみならず、任職字全般に亘って御指導いただいただけに、その思い出は尽きない。大寂定中より、梅花流の発展に一層の御加護を賜らんことを。

大館市 温泉寺住職

佐藤 舜 英

梅花流秋田県師範会初代会長、大館市宗福寺前任職加藤信三師は数年前よりご病気の為、任職をも退かれて静養しておられたが、ご容態が急変し昨年十一月十五日忽然と遷化された。世寿七十一歳。  
師は二十六歳にて大館城主佐竹氏の菩提寺である同寺の任職となられたが、時を同じくして、梅花流が発足し、一・二年後には秋田県でも普及が始まり、大先達である鷹巣町七日市龍泉寺先住佐藤芳雄師範や全應寺佐藤仁鳳師範等と共に、その流布普及に奔走された。  
創世期に於ける講習や奉詠大会等の逸話も、私には先輩師範からお聞きする程度しかわかりませんが、それこそ手弁当で大変難儀をされた様子が伺えます。

昭和30年盛夏 第1回梅花流御詠歌講習会



会場 宗福寺 中央・加藤信三老師



# 弔 辞 お別れのことは

東堂様（前任職様）、お呼びしてもお答えは無く、お逢いすることの出来ない遠いところで、何か言いたげに笑みを浮かべ、手を振りつつあるお姿が浮かんで参ります。表立つことは好まない、やさしい和尚さんでした。

— 中 略 —

いまだお元気な頃、東堂様奥様共々に西国三十三番札所めぐりにお連れ戴きました。旅の途中では、夕食後各部屋を廻り、私共の疲れた身体の痛みをそれぞれに手当てして戴き、御指導下さいました。

奥様の痛みは後回しでお世話になり、次



の日はみんな元氣を取り戻し、札所めぐりを続ける事が出来ました。このことは参加の皆々が厚く厚くお礼申し上げます。

また講中の皆共々に、天徳寺を中心に、ボケ封じのお寺や赤田の大仏様その他のお寺のお参りにお連れ戴き、安らぎの旅をさせて戴きましたこと、本当に有難うございました。

東堂様は、梅花流の草分けとして多くの師範の方々を育ててくれました。また秋田県の初代師範会長として県内の梅花普及にも心を配られました。

私共も初めは東堂様のやさしく厳しい御教えを受けました。東堂様の御詠歌（和讃）の美しいハーモニーの荘厳な声の響きを、他のお寺の梅花講員さんから「格別だからよくお聞きした方がよい」と教えられた事が有りました。あのお声でもう一度、いいえ二度三度とお教え戴き、お聞き致したく願いますのに残念に思います。

— 中 略 —



平成9年12月5日日本葬儀 於 大館市・宗福寺

東堂様は、日常の雑務の中に、心静かな心境に有りたいと願っておられたようですが、病はその心ばかりか命まで奪ってしまいました。これも宿命の人生であったのでしよう。本当に残念です。

今は幸いに、俊明和尚様が坐禪をなさり住職として立派に励まれていることは嬉しいことです。

講中の方々、梅花講の皆さんにかわりお別れのことばと致します。

安らかに安らかにお休み下さい。 合掌

宗福寺梅花講 高瀬キミ工



# こころをよむ (三)

## 観世音菩薩御和讃

### に生かされて

この歌詞解説などは、とても解り易いので書くまでもないと思うが、私自身のささやかな体験を通して、御和讃の真意に迫りたいとおもう。

私は「観音さま」とお称える時、いつも亡母を思い浮べる。子ども六人を生み、戦中戦後のもの全く不自由した時代を乗り切って、全員を見事にはぐくみ育てた母は、まさに大慈大悲の観音さまであった。その生きる絆としての合掌礼拝行であった。朝夕、念持佛の楊柳観音像の前にふかぶかとぬかづき拝む母の後ろ姿に、私たち子どもはいかに正信心が大切か、教えられた。

『あたたかな慈悲とまどかな智慧を、あまねくそなえた方こそ、この世の母、観音さまである』と言いつつ第一の歌意は私自身にとって人ごとでなく真実であった。

昨年九月に、私は腹部の手術を受けた。

思いがけない病気で、四十数年ぶりの入院加療であった。それまで毎日、いろんな用件で東奔西走の日常であったのが、とつぜん病院のベット生活に変わった。

家族や親類に暖かく励まされ手術室に向い、医師や看護婦の自信に満ちた言動で、どれほど不安を消され元気づけられたか。『心の闇と迷いはくらくて深いが、それだからこそ救わずにおれない観音菩薩の誓願の光』を、私は強く感じた。そして一切をお任せする気持ちになり手術は無事終わった。禍福はあざなえる縄の如し」というが、どん底におちてこそ至福の人生が訪れよう。これはまた、観音妙智力の不可思議なはたらきと、素直に受けとめられたのである。

私は今まで、梅花関係のさまざまな方々の出会いを得ることができた。梅花大会、検定会、研修会など、その折おりにお会いするすべての皆さんに、いつもなにかを教えられた。それがご縁でその後、長いお付きあいをしていたりする。いつも思っているのは、梅花をやっていると、どうしてみ

んな心やさしくなるのだろう。どうして思いやりぶかく、また気づかいされるのか、ふしぎなくらいだ。

それぞれの日常の生活では、かならずならんかの支障とか苦悩があるはずなのに、それがいつのまにかきれいに淘汰とろたされてしまふ。これこそ『人は常精進してこそ佛の心、すなわち泥中の白蓮華を咲かせ得る』第三番の本意であるといえよう。

この『あふれるようなめぐみを頂戴し、毎日喜びの心で生活する。今さらなにをかもい、わずらうことがある』との終章は、真の人生の姿勢を示している。常に前向きに、物事を善意に受けとめ、佛法を行ずる幸せを持つ。そして日夜をとわず、自然に『南無や大悲の観世音』とお唱えしやまぬ時、私たちは観音さまと、一如になりきる。

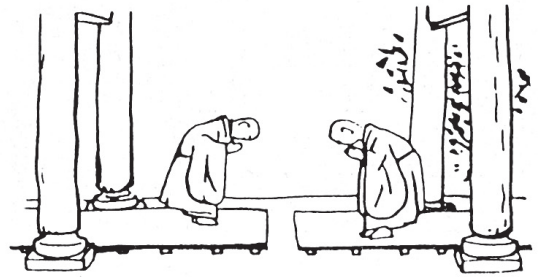


合川町  
太平寺住職  
亀谷健樹



## チヨット ぶじょほう

## 夢また夢



寝ぼけ眼を爽やかな風が開いてくれた。

水田の早苗を渡る風が、気持ち良さそうに大館樹海ドームの周りを舞っている。何年かかったろうか、今日は待ちに待った秋田県での梅花流の全国大会が始まる日だ。

既に、梅花が誕生して五十年余が過ぎていた。秋田県も遅れることなく、梅花が花を開き始めていた。しかし、その数は少なく小さいものだった。でも、小さいながらも立派な実をつけるようになってきた。

いつのまにか、他県の人から「秋田県は梅花王国」と呼ばれるようになっていました。しかしまだまだです。県内も地域によっては梅花講が無い市町村がけっこうあります。でも他県に比べれば、やはり普及し

たのかもしれない。

さて、今日と明日の二日間ここに二万人の梅花講員が全国から集まるとは、信じられないことです。東北六県のなかでは最後の開催県となってしまいました。それだけに何か期待されているのかもしれませんが、遠くからも目立つ、かまぐらのような樹海ドームに、続々と大型バスが到着してくる。にこやかな笑顔と共に、参加者がゲートから会場に入っていく。正面のお釈迦様、端正なお顔に合掌する。そして其の前に広がる幅五十メートルはあるだろうか、大ステージが目を見守る。

鹿角市の大日堂舞楽が始まった。開会式が始まったのだ。まるで仏さまが本当に踊っているようだ。いつの間にか、ステージの両端に講員さんがならんでいる。舞いが終わると三宝御和讃の奉詠が始まった。大導師が入場してきました。

講員さんが主役の大会になっている。登壇奉詠も、二組がステージにいるので、これまでの大会と違い、奉詠の時間を長く出来るようになっていた。五百人が一回に登壇出来る。これは凄い。

アトラクションは、秋田の祭のオンパレードだった。雷鳴かと思うような大太鼓の音、鷹巣町綴子の世界一の太太鼓が登壇した。あつげに執られていたら、会場内のあ

ちらこちらからナマハゲが飛び出して来た。客席は大騒ぎとなってしまった。奇声を挙げながらナマハゲ達はステージに向かって集まってきた。仏前に一礼すると静かに舞いが始まった。二十人程のナマハゲの一糸乱れぬ舞いは静かな感動をあたえた。

最後に登場したのは、軽やかな笛と太鼓の音と共に出てきたのは秋田の竿灯でした。「ドッコイショー、ドッコイショー」の掛け声のなか、大若子若が左右に揺れて、場内は最高潮になった。秋田の祭りを堪能してアトラクションは終わり、静かに心を整えて、閉会式が始まった。

場内一万人が水を打ったように静まりかえっている。浄心の独詠が心に染みる。大会会長が来年の再会を約束してあつげなく終了してしまつた。しかし、まだ終わっていないなかつた。駐車場までの道の両側に、秋田県の梅花講員が整列して見送っているのです。ある講は自分達で作つた花をプレゼントしながら、またある講は作り方の説明付きの「ガッコ」をプレゼントしながら別れを惜しんでいた。最後の一台が見えなくなるまで手を振っていた。

どつと疲れが出てきた、心地よい眠気が私を誘う、夢の世界へ……

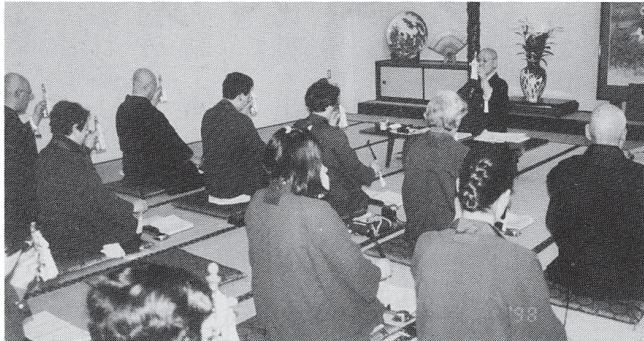
合川町 新田 寺

保坂 春 聴



# 宗侶寺族一泊研修会

講師 新潟県 須戸秀圓師範



1月13日・14日 山本町森岳

大歓迎

禅センターの

## 梅花講習会

- 毎月第二金曜日(一月、八月は休み) 午前十時半〜午後三時まで
- 参加自由(初心者も歓迎)
- 会費 無料
- 講師 宗務所講師、その他
- 昼食 持参
- 場所 秋田市泉三嶽根十五ー十八 (天徳寺のそば、平和公園入口左)
- 電話 〇一八八ー六八ー六八七一

### 秋田県宗務所 特派師範・宗務所講師

氏名	寺院名	教区	住所
<b>特派師範</b>			
柴田弘一	東泉寺	2	秋田市金足
細谷裕昌	善徳寺	9	山本郡二ツ井町
岩館祖芳	恩徳寺	11	鹿角市花輪
山中律雄	禅林寺	14	由利郡仁賀保町
<b>宗務所講師</b>			
近藤俊貞	円通寺	3	由利郡西目町
柿崎隆穂	東山寺	5	湯沢市柳町
富岳正純	盛沢寺	9	山本郡峰浜村
荒川高明	竜江寺	9	山本郡琴丘町
柳川浩二	玉鳳院	9	能代市常盤
奥山芳寿	浄福寺	10	北秋田郡森吉町
保坂春聴	新田寺	10	北秋田郡合川町
丹生純雄	相川寺	12	河辺郡雄和町
本間雅憲	普門院	12	河辺郡雄和町
佐藤俊晃	龍泉寺	18	北秋田郡鷹巣町
佐藤仁鳳	全應寺	18	北秋田郡比内町

### 編集後記



◎秋田県梅花流の礎の一人、当会初代会長大館市宗福寺東堂加藤信三老師が昨年十一月にお亡くなりになりました。

二十年程前、本山から戻ったばかりの、青二才の私の様な若者にも、会議では発言の機会をつくり、意見や感想を求め、その実現に尽くしてくれるものであった。

お陰で、多くの若い僧侶が梅花の世界に飛び込んでくるようになり、秋田県の師範会は、自由な雰囲気の中で次々と特派師範が誕生するようになりました。とうぜん梅

花講も県内各地に花開くようになってまいりました。

これ偏に、当時会長だった加藤老師のお陰でありました。大変お世話になりました。◎多くの感動と元気を戴いた長野オリンピック、人間のもつ無限の可能性を再認識させてくれました。選手の方々に感謝申し上げます。

梅花も同じですね、人間の素晴らしさや正しい生き方を、唱え聴かせてくれます。

お彼岸ももうすぐです。生き物が芽吹き動き出す春がやって来ました。清い香りの梅も咲き出します。(春聴記)